

第4回「青森駅を中心としたまちづくり有識者会議」

資料

H29.5.16

ホテルクラウンパレス青森 2階「奥入瀬」

青森駅自由通路等のデザイン素案 デザインテーマ

■青森駅自由通路デザインコンセプト

青森、情景を感じるみち

プロムナード
青森の豊かな自然、その四季折々の魅力ある眺望を愉しむ遊歩道

デザインテーマ

案1

「青森の海、山、空を感じる回廊」

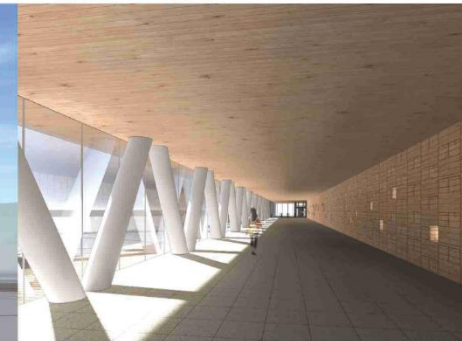
青森の顔として、人々をやさしく迎え入れるゲート。
海と山と空、青森の眺望を絵画フレームのように
切取って魅せるギャラリー空間。



案2

「木の温もりと親しみを感じる回廊」

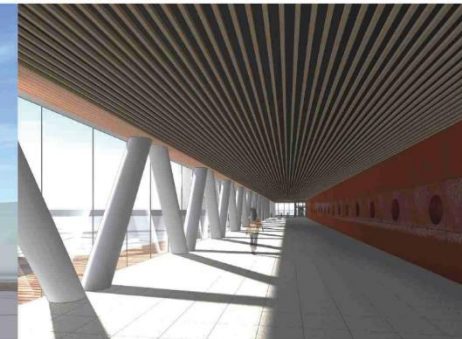
森や山々の豊かな緑に恵まれた 青森、
そのイメージを象徴するナチュラルな木調の内外装。
駅前の原風景である積まれたりんご箱を想起させる
温もりと親しみの空間。



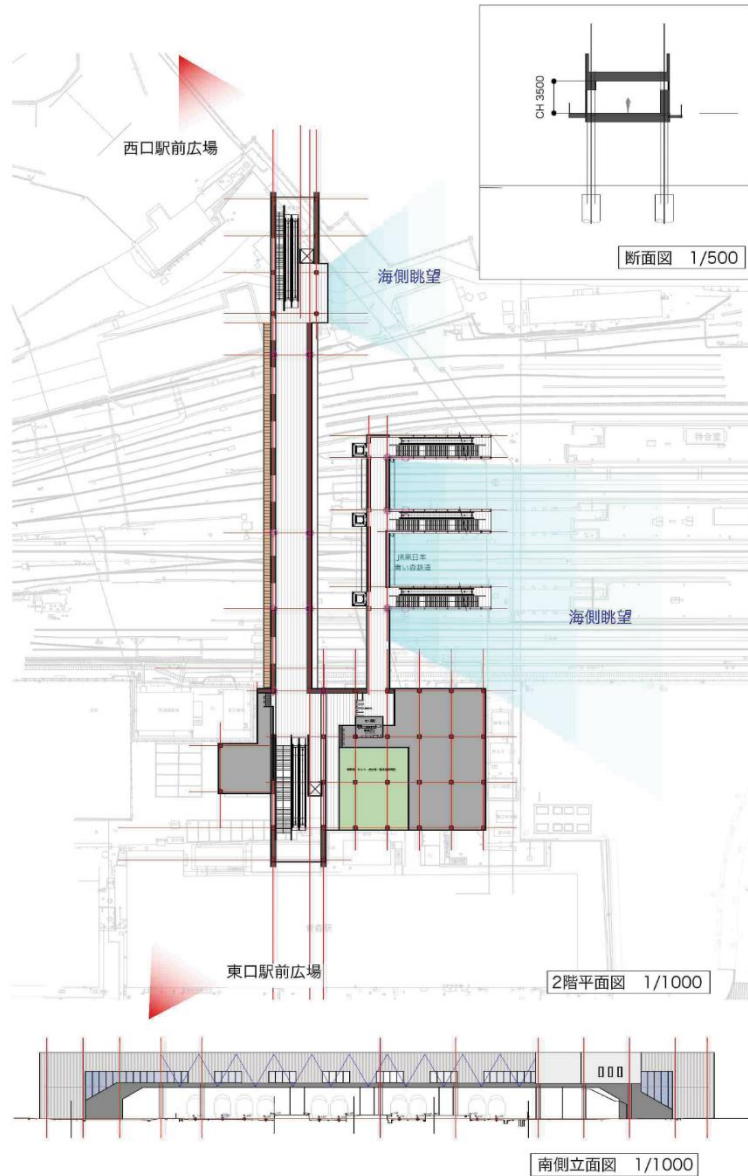
案3

「過去と未来をつなぐ回廊」

交通の結節点 = 交流の拠点、青森。
連絡船と呼応するような大きな船を思わせる曲面天井が
おおらかに迎える。
歴史を重んじながらも新しい青森の発展を予感させる空間。



青森駅自由通路等のデザイン素案 外装イメージ 案1



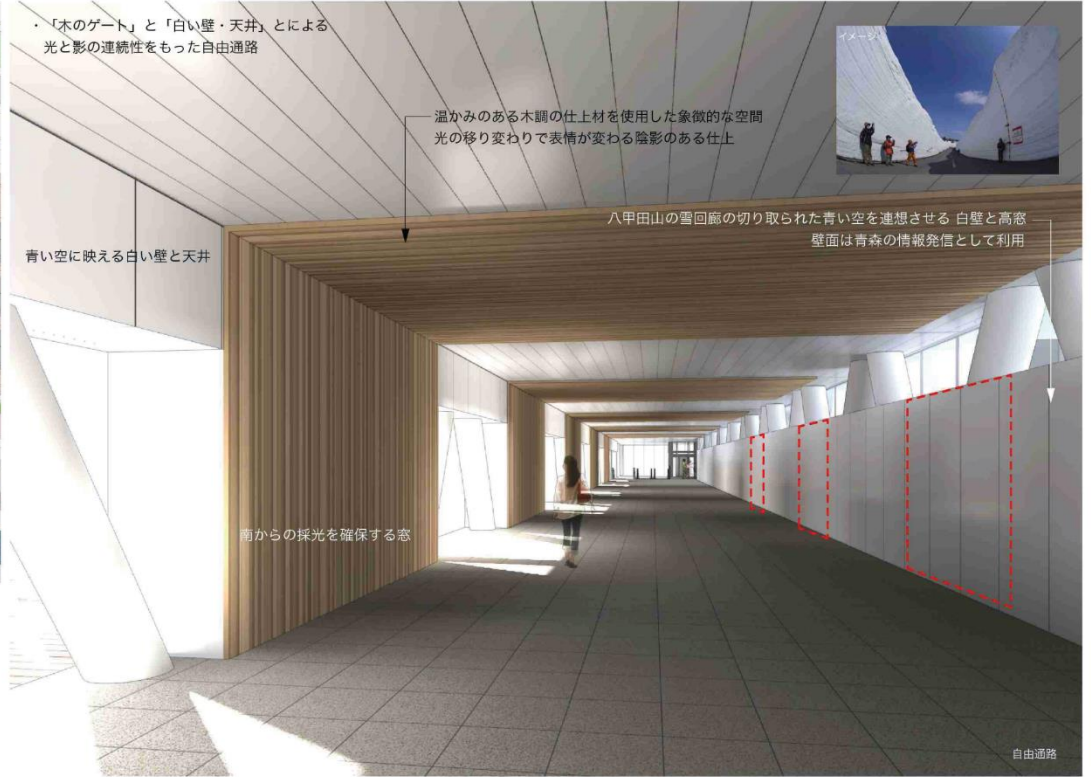
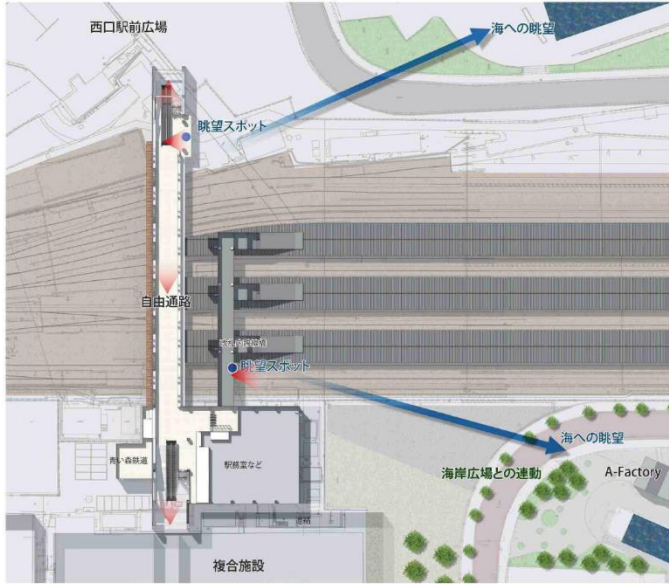
案1

「青森の海、山、空を感じる回廊」

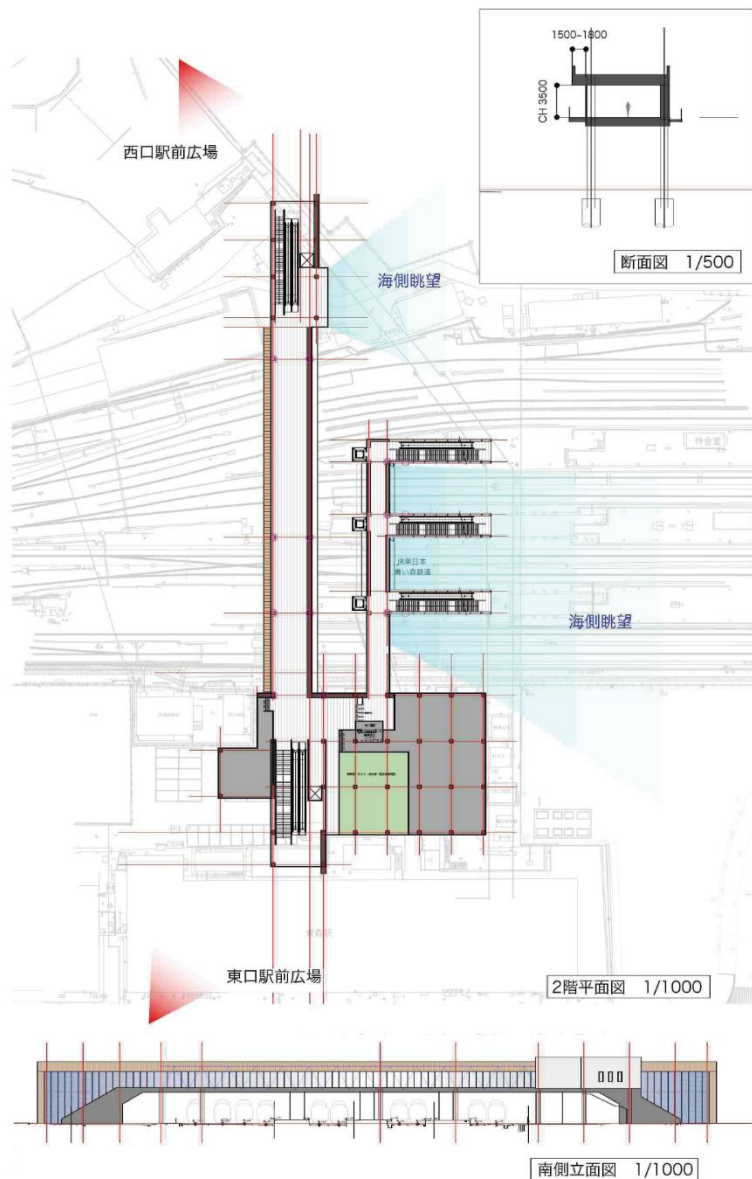
青森の顔として、人々をやさしく迎え入れるゲート。
海と山と空、青森の眺望を絵画フレームのように
切取って魅せるギャラリー空間。



青森駅自由通路等のデザイン素案 内装イメージ 案1



青森駅自由通路等のデザイン素案 外装イメージ 案2



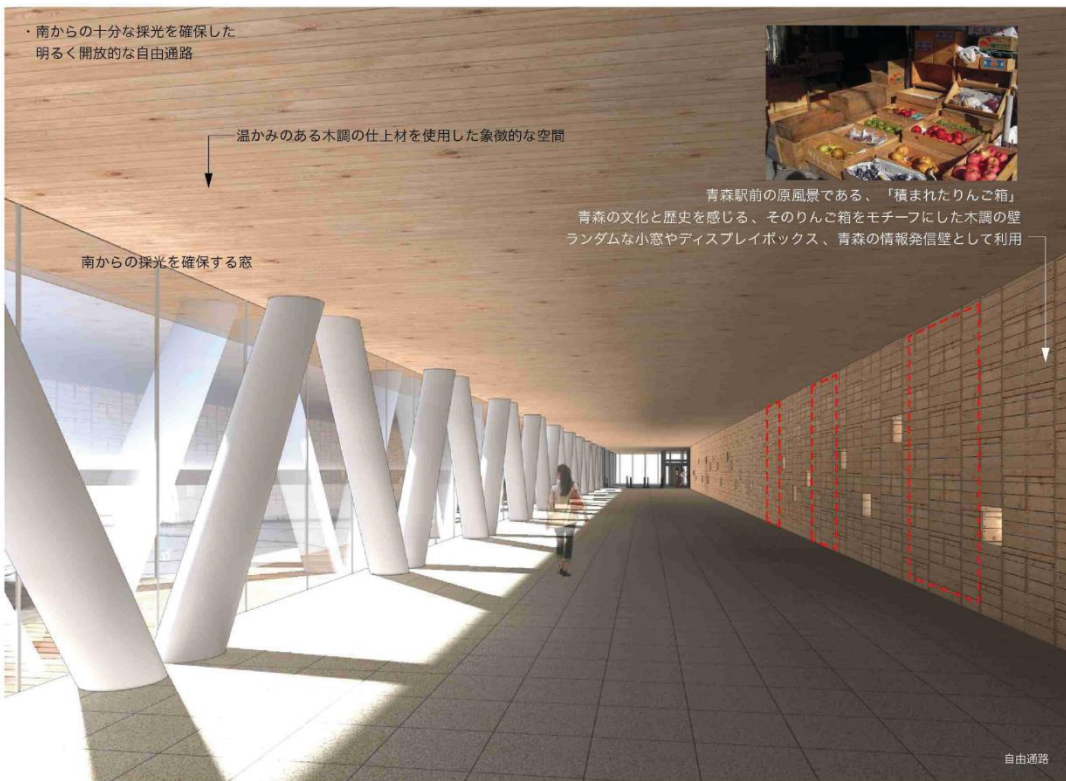
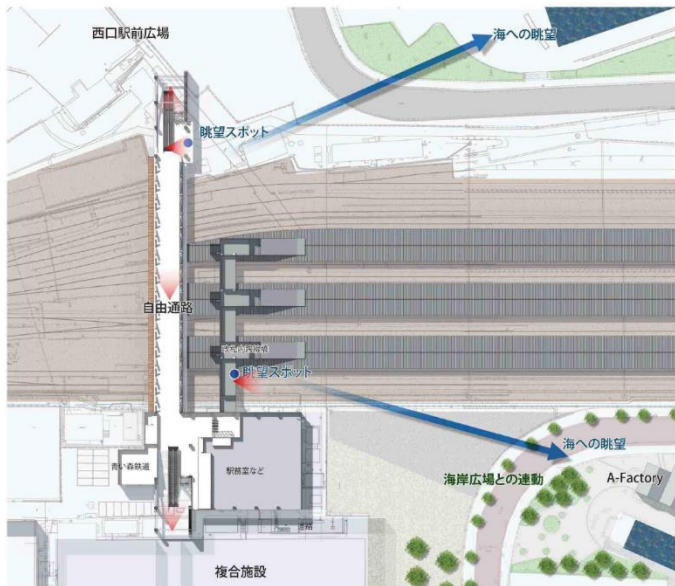
案2

「木の温もりと親しみを感じる回廊」

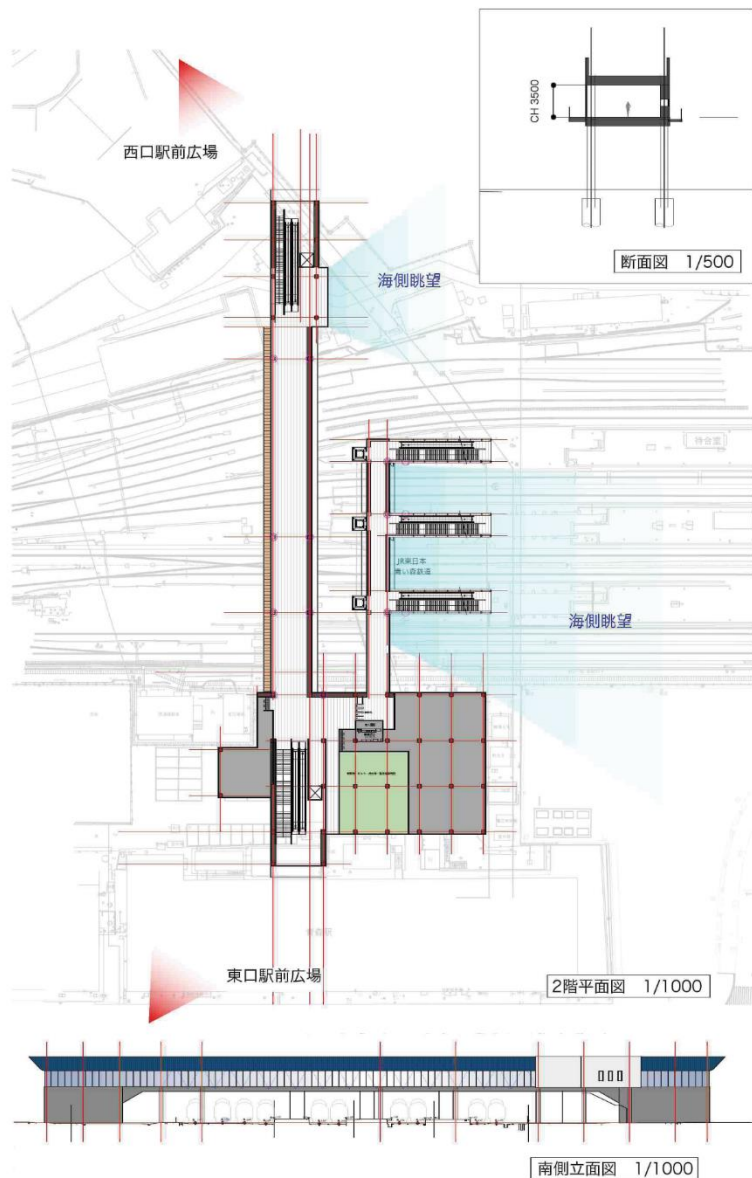
森や山々の豊かな緑に恵まれた 青森、
そのイメージを象徴するナチュラルな木調の内外装。
駅前の原風景である積まれたりんご箱を想起させる
温もりと親しみの空間。



青森駅自由通路等のデザイン素案 内装イメージ 案2



青森駅自由通路等のデザイン素案 外装イメージ 案3



案3

「過去と未来をつなぐ回廊」

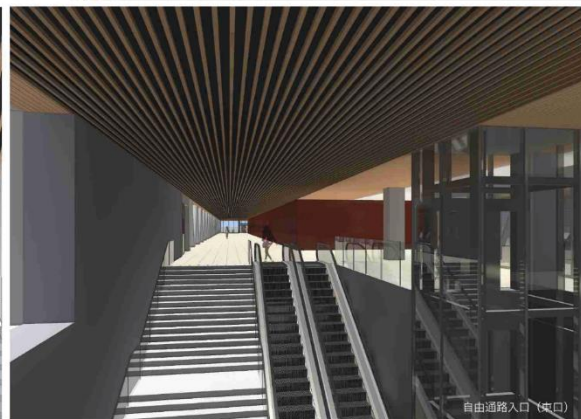
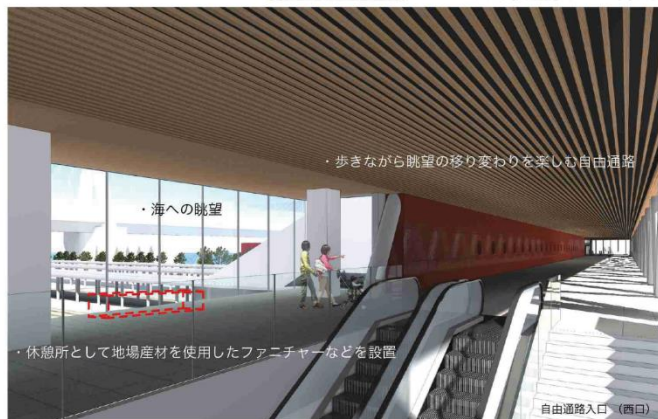
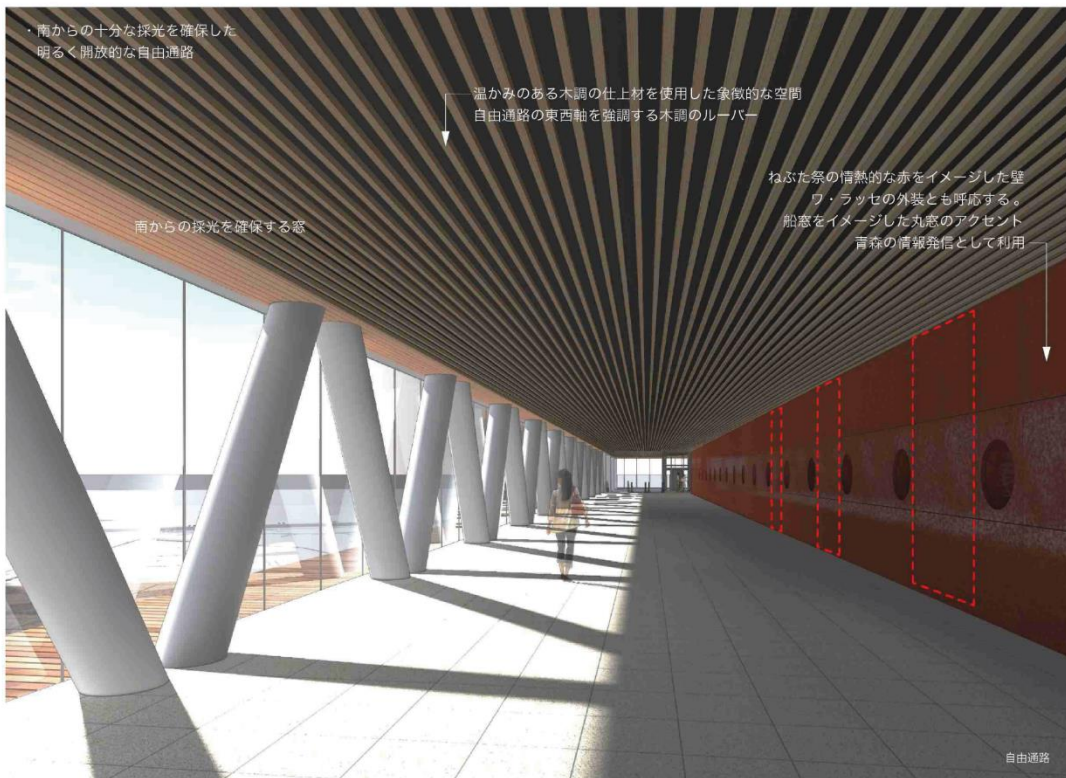
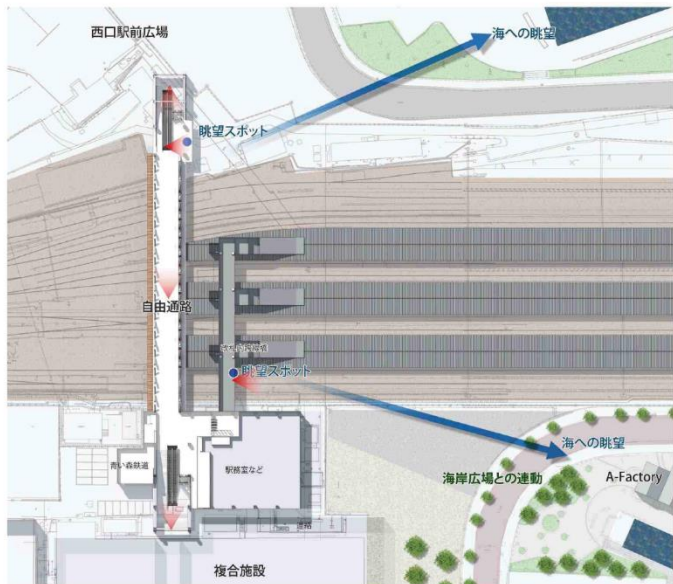
交通の結節点 = 交流の拠点、青森。

連絡船と呼応するような大きな船を思わせる曲面天井がおおらかに迎える。

歴史を重んじながらも新しい青森の発展を予感させる空間。



青森駅自由通路等のデザイン素案 内装イメージ 案3



案1 青森の海、山、空を感じる回廊

《肯定的なご意見》

- 白い壁とガラス(シンプルなもの)がよい
- 白い内壁はギャラリー利用した際、作品の展示がしやすい
- 壁によりかかって待つスペースがたまり場として機能する
- A-FACTORYやベイブリッジとマッチしてきれいに見える

《否定的なご意見》

- 案2・案3と比べてると暗い
- 白は汚れやすい
- 壁が陳腐
- 窓の(絵画)フレームとしての機能はிரらない
- 県立美術館のような雰囲気の特徴がない
- 「雪」のイメージは実際に体感できる(青森の人間にとって雪は克服するイメージであり、外部の人間にとって雪はあこがれのイメージ。この相対するイメージを一つのデザインに集約するのは難しい)
- 全体が白いので少し冷たさを感じる。雪をよく見せる素材の方がよい
- ギャラリーとして作品の展示がないと不細工(立体の作品を置きづらい)
- 使い続けるのは難しい
- 暗い割りにスポットライトがなさそう
- 外観のインパクトに欠ける

《その他》

- 汚れや経年変化については、緑で変化していく物語としてはどうか
- 白い壁・ガラスを上手く使ってほしい

案2 木の温もりと親しみを感じる回廊

《肯定的なご意見》

- りんご箱はかわいいのでよい
- 木の素材感(木目・温かみ)がよく、また、ガラス面が広く開放的でよい
- りんご箱の感じが大小凹凸があり、おもしろい
- のぞき窓、こぼれる光のイメージはよい
- 青森の民・工芸品(こぎん刺しやねぶた等)とのイメージマッチもよく、また、ねぶたの灯りが木に反射することで更に温かさを感じられそう
- 青森=りんご、木=いやしであり、りんご箱のイメージは青森らしく、よい
- 小窓の眺めもよいのでは
- りんご箱はイベント開催時にも邪魔をしない
- 内観重視であれば案2がよい

《否定的なご意見》

- りんご箱はいらない
- 整備費が高額になるのでは
- 木の温もりは駅周辺の景観と調和するのか
- りんご箱は作品の展示を行う場合壁の主張が強すぎて邪魔
- 内壁がワンパターンであるため、凹凸を付けるなど工夫すべき

《その他》

- りんご箱の部分を市民参加で仕上げるとよい
- 「木」とするとあちこちに似たようなイメージの建物がある、そこをどう「青森のイメージ」に近づけるか→青森のオリジナルが必要

案3 過去と未来をつなぐ回廊

《肯定的なご意見》

- 船を思わせる屋根は斬新
- 黒の壁はカッコよい
- 連絡船(八甲田丸)のイメージを残すのもよい
- 落ち着いていてよい、展示する際相性がよさそう
- 赤はワ・ラッセのイメージと連動しており、一体的
- 外観と中のギャップがよい
- 全て「まちづくり」の理想、理念に合致している。文化、歴史、自然、四季を表現するような通路
- 外観重視であれば案3がよい

《否定的なご意見》

- 赤い内壁は作品の展示を行う場合壁の主張が強くと邪魔
- 西口は人が少なく暗いので壁が暗いとよけい暗く感じる(もう少し明るい色にしてほしい)
- せっかく近くに市場も現存する中、あまりに未来的(景観上調和がとれない)
- 「ほっとする感」が保たれない(駅は心のふるさと)
- 鉄素材のイメージは冷たく感じられる
- 近くに本物の連絡船がある中、駅に船のデザインは必要か
- 赤い内壁はインパクトはあるものの飽きがこないか

《その他》

- 船とのつながりは内部で歴史写真の展示等程度でよい

デザイン全体について

- 景観として通路建築物全て一体となるよう整備してほしい
- 光と風、雪などの青森らしい自然環境をうけとめる橋としてほしい
- 250m美術館を実現するにはニッチを設置してほしい、ニッチがないと面白味がない(展示スペースに配慮してほしい)
- 照明に配慮してほしい
- 床がスケルトンで、線路が見えたらおもしろい
- 海側の窓を大きくし、駅通路とのやり取り、出会いと別れを演出する
- 北窓から美しい海、青森駅ならではの眺望を得られるよう、窓はガラス面を多く、北側を大きく
- 海風を取り込めるようにしてほしい
- マニアが来るような(電車が見える窓のある)橋にしてほしい
- ルーバーをうまく使ってほしい
- 青森らしさは冬寒いこと、夏も短期暑い(自然環境と折り合いをつける)
- 案1から案3のよい所取りのデザインにするとよい
- 内部空間としての意識を超えるよう検討してほしい
- デザイン、テーマが後の都市機能の邪魔をしないようにする

その他機能等について

- まち歩き、観光コース、お店回りなどのコースになるような自由通路(ただの通路とならないようにしてほしい)
- 楽しい橋にしてほしい(液晶ビジョンから映像コンテンツを流す、大時計、イルミネーション、オブジェのような椅子、わくわくする動線)
- 橋を歩いて美しく、健康になるようにする
- 外壁や内壁のデザインについての話し合いだけでなく、使い方についての話し合いをしたい(ギャラリーは誰のものなのか、どう使う、誰が使う、誰が考え続けるのか)
- 作品の展示をするなら年1回グランプリを決めるなどのしくみが必要
- 自転車を通したい。人と自転車を分ける工夫をしてほしい
- 西側の眺望、ギターの弾き語り、ダンス、若者、アーティストなど、可能なようにする(イベントを行う際には問題が起きないように市役所各課との調整をしてほしい)
- ネーミングライツを導入してはどうか
- 市役所、観光といった情報発信をしてほしい
- 車止めの設置
- FREE Wi-Fiの設置
- 待ち合わせスポットとなるようなオブジェの整備
- 自由通路の整備より都市機能を含む全体計画が先

まとめ

【ワークショップでは】

- デザインに限らず「利用者が使う状況」や「物語が生まれること」などを考えることが大切との趣旨の御意見がありました。
- デザイン案については、各案とも肯定的なもの、否定的なもの、さまざまな御意見をいただいております、全体としては、案2に対する肯定的な御意見が比較的に多かったものと捉えています。

案2のデザインをベースに

【本日の会議では】

ワークショップで御意見のあった

- **利用者が使う状況** を考える
- **物語が生まれること** を考える
- **四季折々の風や景観を中からも外からも楽しめる** ように配慮する
- **まち歩きに組み込まれていくような魅力ある通路** にする

との視点から御意見をいただきたい。

鳥瞰イメージと海への視点・りんご箱がある風景 (参考)

